

HELLO PSJ

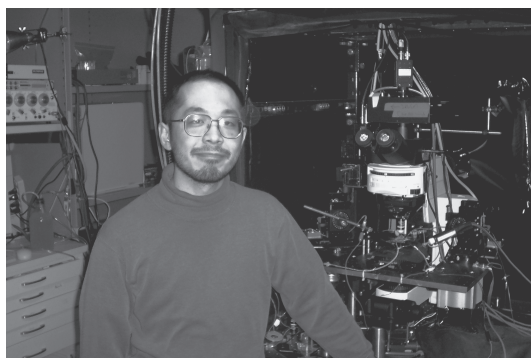
アメリカでラボを持ちたい！

Cold Spring Harbor 研究所 安田 涼平

私が勤める Cold Spring Harbor 研究所は、マンハッタンのある、ロングアイランドという島の Cold Spring Harbor 市にあります。マンハッタンに近くにあるながら、緑豊かで、静かな、安全な街です。研究所は、海のほとりにあり、三角屋根の研究棟が連なる、美しい風景が広がっています。私は、2000 年秋から、この研究所の Dr. Karel Svoboda の研究室でポスドクとして働いています。私の興味は、神経のシナプス内のタンパク質による情報伝達を調べることです。脳切片の神経細胞を、カルシウム感受性蛍光色素などで染色し、2光子顕微鏡を用いて観察しています。

3年ほどのポスドクの後、ボスのすすめもあって、去年の秋から今年にかけて、アメリカで大学教員になるための就職活動をしました。アメリカで職をもつ事の利点は、すぐに自分のラボをもてること、サポートスタッフが充実していて研究に集中するための環境が整っていること、キャリアの比較的早いうちから研究資金が集めやすいことなどです。この就職活動は、なかなか楽しい経験だったので、報告させていただきます。

アメリカの大学の就職シーズンは、9-11月ごろに始まります。この季節には、Nature, Science, Cell といった雑誌には、たくさんの公募の広告が載せられます。絶対にその年に独立したいと考える場合は、通常、数十通は応募を出します。しかし、私の場合、神経生物学に分野を変えたのが比較的最近だったこともあり、まだラボを持つには早いかな、という気持ちがありました。そこで、だめでもともと、もし運良くオファーをもらったなら絶対に行きたいと思った、7つの Assistant Professor のポジションに応募しました。



「2光子蛍光寿命測定顕微鏡の前で」

通常、応募の書類は、表書き、履歴書、研究計画で構成されます。また、多くの場合は、3-5通の推薦状が必要です。この中でもっとも大事なものは、もちろん表書きです。1つのポジションに数百の応募があるわけですから、そのなかで目立たなくてははいけません。自分のセールスポイントをきちんと書くのが大事です。履歴書は研究歴と業績のみを書きます。年齢、性別などを書く必要はありません。アメリカでは雇う側がこれらの個人的な事を聞くことは違法なのです。日本でも、公募のさいの年齢制限はぜひ撤去してほしいものです。研究計画は、 Grant 応募書類と違い、詳細に立ち入らず、大まかな話しを書くのがよいとボスにアドバイスされました。推薦状では、履歴書や文献リストからは分からない研究室への貢献などが、チェックされるといわれています。PhD を取ったラボと現在のラボのボスの推薦状は必須で、あとは外部の人に頼むのが定石です。

それから数ヶ月、どきどきして書類選考の結果

をまちます。良い返事は電話で、悪い返事は手紙で来るものです。結局、5つの大学から面接に招待されました。面接では、1つのポジションにつき数人が招待され、現地に2-3日滞在します。通常、面接の日程の最初にセミナーが予定されています。セミナーが、面接での審査で、最も重要なポイントであることは疑う余地がありません。話す相手は、学生からプロまでいろいろなので、話しは一般向けでわかりやすく、専門用語を避けます。私の、いわゆる日本人なまりでも相手に通じるよう、ゆっくりと話すこと、語尾をはっきりいうことに注意しました。セミナーの後は、30-60分おきに10-20人の教員達と話します。年の近い Assistant Professor の人達と話すのは楽しいのですが、本来もっとも売り込まなければならない、学部長などの面接では、何を話したらよいかわからず、会話が滞ってしまうこともありました。夕食にも招待されますが、これも面接の一部で、社交性などをチェックしてるそうです。これも私にとって試練でした。私の英語力は、科学の話しならなんとかこなせる、という程度のもので、夕食時にエレガントな会話を楽しむなどという芸当はとてできません。しかし、相手側も楽しい場をつくるように、一生懸命話題を提供してくれました。

さて、このように面接で苦戦を強いられた私ですが、Duke大学神経生物学科だけは、2次面接に私を招待してくれました。2次面接に呼ぶときには、大学側はオファーをだすつもりでいます。2次面接では、売り手と買い手の立場が逆転し、相手が売り込む番になります。大学側の負担で家

族を同伴し、家族の目からみても本当に住みたい場所であるかどうかを判断できるよう、不動産業者に街を案内してもらったり、大学の設備などを見て回ります。

正式なオファーの手紙をもらう前に、大学側からオファーを出す準備があることを電話でいわれます。このときから、オファーの内容に関して交渉を始めます。給料は交渉しても普通は上がりませんが、スタートアップパッケージに関してはかなりの交渉がききます。スタートアップパッケージは、通常、グラントをとれるまでの2年分の予算、ラボのスペース、1年分の授業やサービスの免除です。私の場合は、2光子顕微鏡を使う実験を予定しており、高めのスタートアップの予算が必要でしたが、学科長が特別に予算を作ってくれました。

こうして、私は、来年からDuke大学にラボを持つことになりました。しかし、これでほっと一息つくわけにはいきません。職を得ることよりも、ラボを維持していくことのほうが格段に難しいといわれるからです。Duke大学のあるDurhamは田舎ですが、静かで安全、住居費も安い、住みやすいところです。日系企業が進出していることもあり、日本食レストラン、日本食材店、日本語補習校などの、日本人が住みやすい環境も比較的整っています。ポストドクに来たい、という人は連絡をください。また、近くにお越しのさいはお寄りください。

E-mail: yasuda@cshl.org
ホームページ: <http://www.linkclub.or.jp/~hiikoysd/ryohei/rindex.html>